

学びによりそう AI Learning Accelerators

近年、学びの形は多様化し、生徒一人ひとりのニーズに対応した教育が求められており、教育の質と多様性の向上を目指した施策も数多く生まれています。Learning Accelerators は、一人ひとりの生徒に寄り添った学びを提供する新たなツールです。このパンフレットでは、Learning Accelerators がどのように学びを革新するかを詳しく紹介します。生徒の理解度に合わせて学習内容を調整したり、個々の学習スタイルに対応した教材を提供したりすることで、生徒一人ひとりの学びの経験が豊かになっていきます。

Learning Accelerators とは？



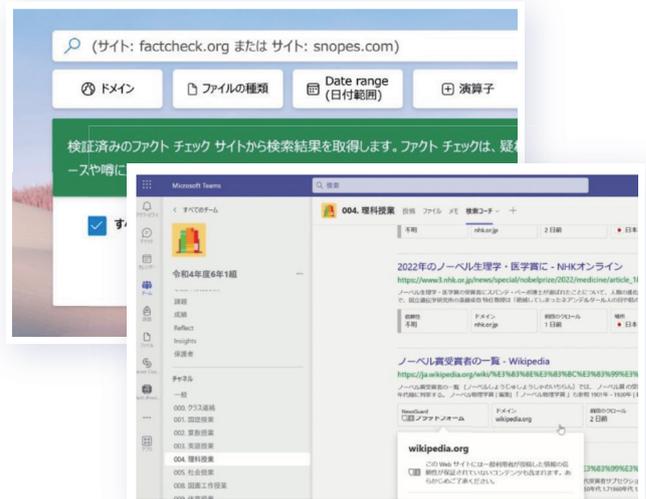
Learning Accelerators は学習活動の入り口になる Teams の中に組み込まれている AI 学習アプリです。どんな子どもたちにも学びが提供できるようにすべての教育機関に無償で提供されています。AI の力によって基礎的な学力である音読と数学の力、子どもたちの将来に必要な力として情報を正確に検索する力と表現する力の育成を目指しています。また、データ収集アプリ Education Insights に学習情報を集約しており、教員は簡単にデータ分析を行うことが可能です。



Search Progress / Search Coach

正しい検索の仕方を学ぶことで、
AI時代の情報モラル教育も万全に。

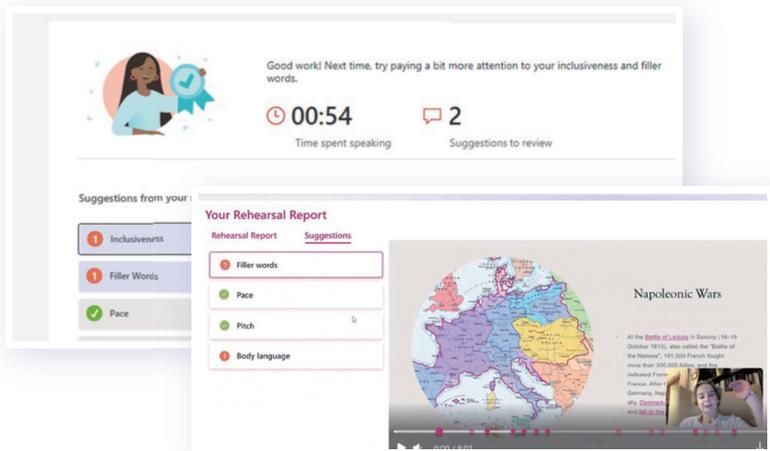
子どもの情報検索能力を育成するためのソフトになります。信頼度が高い情報を得るために必要な要素を確認しながら検索を行うことができます。大学や政府が作っているサイトなのかといったドメインの確認や、情報の新しさ、ファクトチェックがされているかといった様々な要素を子どもと一緒に確認しながら情報検索能力を育てていきます。また、子どもたちは不適切なコンテンツを禁止するセーフサーチをONにすることで、広告がブロックされている状態で安全に検索を行うことが可能になります。



Speaker Progress/ Speaker Coach

AIの力を借りて
恥ずかしくなくプレゼン練習。

子どもたちが不安を感じる発表に対してAIが寄り添う形でプレゼンテーションの力を育成します。AIが子どもたちの話す速さ、表情、身振り手振り、繋ぎ言葉、繰り返し等の表現を分析しながら、表現に対するアドバイスをします。一人で繰り返し練習できるので、緊張することなく話し方に自信を付けることができます。



CoachとProgressの違いとは？

Learning AcceleratorsにはReading CoachとReading Progressといった2種類のアプリがあります。Progressは教員が課題を出して、進捗を確認するために作られています。一方で、Coachは学習者が自由に課題を設定して練習をすることができます。例えば学習者自身が書いた英作文の音読練習するといったことが可能です。学習者の状況に応じて、二つの機能を使い分けることができます。

Reflect / Education Insights Premium

生徒の日々の心の变化もタイムリに一キャッチ。
クラスの雰囲気を多面的に把握。

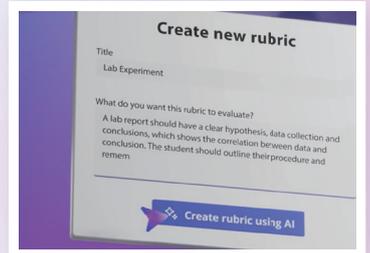
子どもたちの日々の心の变化をキャッチして、より望ましい学級運営につなげていくことが求められています。Reflectの機能を使えば、子どもたちの心理状態を、子どもたちがキャラクターのアイコンを選ぶ形で簡単に把握することができます。これは、Education Insightsのダッシュボードを通じて、課題提出状況やクラス内の会話と併せて可視化することが可能です。さらに、Reading Progressにおける間違いやすい単語、Search Progressで検索行動の分析結果を表示することもでき、クラスの学習傾向や雰囲気を、多面的に把握することができます。



課題とルーブリックの自動生成

教育向け Teams にも生成 AI が。課題を自動作成し、ルーブリックも瞬時に作成。

教育機関向けの Teams for Education にも、生成 AI の機能が追加されていきます。課題作成時にタイトルと概要を入力するだけで、詳細を生成 AI が自動生成してくれます。また、その課題を評価するためのルーブリックも生成 AI が自動生成。これまでは時間の制約上なかなか難しかった、課題一つ一つに応じた柔軟な評価も実現できます。



導入事例

すべての生徒の「できた!」を引き出す Learning Accelerators 多くの学校で AI 活用が始まっています。

Reading Progress / Reading Coach

小学校の例 < 堺市立美木多小学校 >

小学校 6 年生で、英語のスピーチの課題として使用しています。教室の中ではなかなか恥ずかしさから、声が出せない生徒も、端末を持ち帰って家で取り組むことで、本来の実力を発揮することができました。

Reading Progress / Reading Coach

特別支援学級の例 < 兵庫県西宮市立高木北小学校 >

特別支援学級で使用しています。場面緘黙症の児童が自宅で録画して肉声を聞かせてくれたり、音読が苦手な児童が録画された動画を見直して、何度も音読に取り組んだりして Reading Progress が素晴らしい効果を発揮しています。

Reading Progress / Reading Coach

高等学校での活用 < 都立浅草高等学校 >

TOKYO 教育 DX 推進事業において、英コミュの授業でデジタル教科書と組み合わせた活用により、パフォーマンステストの結果が向上しました。

Microsoft Reflect

小学校の例 < 松山市立椿小学校 >

生徒の「気持ち」の推移を Reflect で可視化できるように。怒り・痛み・がっかりといった言葉が続く子に対し、早期に寄り添うことで、言葉がけ・見守り・支援の質が向上しました。

Learning Accelerators について詳しくはこちらをチェック

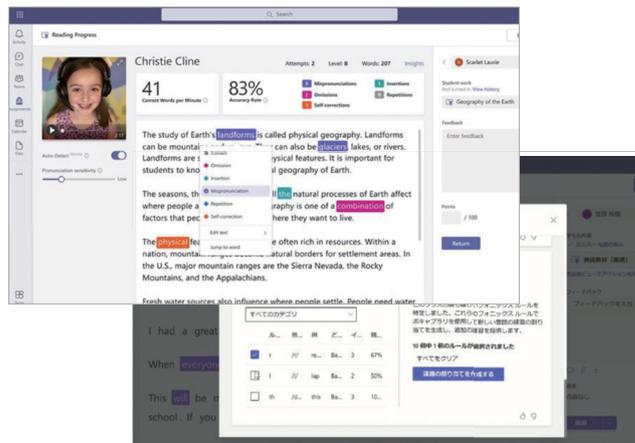
<https://www.microsoft.com/ja-jp/education/learning-tools/learning-accelerators> ▶



Reading Progress / Reading Coach

音読練習は AI とともに。 何度でも付き合ってくれます。

子どもが行った音読の精度を AI が自動採点する機能です。子どもは画面に表示された文章を読み上げることで一人一人の採点結果がビデオ付きで作成されます。教員は間違えた印がついている単語をクリックすることで、該当箇所から動画を再生して確認し、フィードバックを返すことができます。Word や PDF のファイルを入れることで、あらゆる文章が瞬時に音読練習教材になります。英語だけでなく、日本語を含めた様々な言語の音読練習に対応しています。



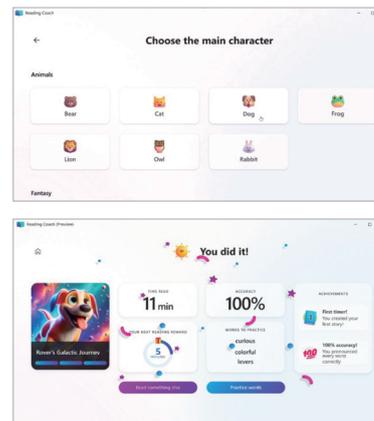
Reading Coach を今すぐ体験してみよう!

安全に生成 AI のしくみを学べる

Reading Coach では、子どもたちは自分の興味のあるお話を、自分で選んで読み進めていくことができます。AI に好きなお話の要素と文章のレベルを選んで伝えてあげることで、お話が自動で生成されます。操作が限定された安全な枠組みの中で、生成 AI のプロンプトのしくみの基本を学ぶことができます。

子どもたちの苦手に寄り添って、一人ひとりのペースで学べる

さらに、音読後は子どもの苦手な単語を瞬時に判定して弱点補強のクイズが出題され、苦手な単語を含んだ形で物語の次の章も生成 AI が創り出します。自分のペースで学べるので、子どもたちのやる気を刺激して、主体的に学び進めることができます。



Reading Coach について詳しくはこちらをチェック

<https://coach.microsoft.com>



編集・執筆担当者：マイクロソフト文教 AI チーム



栗原 太郎



青木 智寛



西村 まりな



廣瀬 望



中田 寿穂



服部 友貴



阪口 福太郎



山越 梨沙子



魯 日民

本リーフレットについてのお問い合わせ

本リーフレットに記載された情報は制作当時(2024年5月)のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。本リーフレットは情報提供のみを目的としています。Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。

製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。

■インターネット ホームページ <https://www.microsoft.com/ja-jp/>

■マイクロソフト カスタマー インフォメーションセンター 0120-41-6755 (9:00 ~ 17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除く) ※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

*記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。

*製品の仕様は、予告なく変更することがあります。予めご了承ください。



日本マイクロソフト株式会社

〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー